

ワセダ発！ぶつかる社会連携

大学職員による教育プログラム



大学職員と学生の奮闘の記録

ける早稲田大学社会連携研究所所長の著者がつづる、大学職員と学生たちの奮闘の記録。

「グローバル人材」？「ローカル人材」？ 知識に偏重することなく、学生の人間力を高める大学教育とは何かを問い、教員ではなく、大学職員が教育プログラムを創出。学生たちが地域の人たちへの密着を通じ、得たものとは。そして、受け入れた側の人たちや行政はなぜプログラムに前向きに参加したのか。人と人とが深い次元でぶつかることで何が生まれるのか。大学職員と学生たちによる奮闘の記録を著者が活写する。

著者は1954年、大分市生まれ。大分上野丘高校、京都大学大学院（工学研究科）修了。80年、通商産業省入省。2002年、早稲田大学へ。（水曜社・1728円）

「ワセダ発！ぶつかる社会連携 大学職員による教育プログラム」

【友成真一著】「教育」を軸に、社会と大学（学生）をつなぐ革新的プログラムを創出し続